

感謝の表し方

1. 教育を考える一言

「ごめんなさいよりも、ありがとうをたくさん言おう」

2. 背景

私の高校ではラグビーが校技とされており、体育の授業でタグラグビーが必修となっていました。女の子同士でボールを投げあっていると、相手が上手くボールをキャッチできたとしてもなぜか多くの子が「ごめん」という言葉を口癖のように何度も使っていました。そんな時に全日本の元主将も務めていた先生が私たちに掛けてくれたのがこの言葉です。

3. 考察

謝罪するとき、お願いするとき、何かをしてもらったとき…。私たちは日常生活の様々な場面で「ごめんなさい」という言葉を使います。この言葉を使えるというのは素晴らしいことではありますが、後ろ向きなイメージがどうしても感じられてしまいます。私の経験でもありますが、相手が感謝をしているとは分かっているにもかかわらずごめんなさいと言われ続けていると、なんだか悪いことをしてしまった気分になります。

この一言をきいてから、私はなるべく「ありがとう」を使うように心がけました。すると相手は嬉しそうな顔をしてくれます。それとともに、私自身も前向きに物事を考えられるようになりました。しかし、ふとしたときに「ごめんなさい」が出てきてしまいます。教育実習の際、初日は緊張していたこともあって無意識のうちに何度かごめんなさいを使っていたようで、その日の終わりに担当教員に「生徒の中には後ろ向きな言葉が嫌いな子もいるから気を付けたほうがいいよ」とアドバイスをいただきました。数日は注意していたのですが、慣れてくると後ろ向きな言葉を使うことはなくなり、生徒にありがとうということが増え、朝のホームルームや毎日一言ずつ書いて提出してもらっていたプリントにも前向きなコメントを付けられるようになりました。生徒もそれを感じ取ったようで、最終日にいただいた手紙には「プリントのコメントが毎日楽しみでした」、「毎朝の一言で今日もがんばろうと思えました」など、うれしい言葉をたくさんいただくことができました。

教育に携わる人間として、教師である以前に魅力的な人間でなくてはならないと思います。魅力的な人間とはどんな人間なのかと考えると様々な要素が浮かぶと思いますが、後ろ向きな人よりは前向きな人が思い浮かぶのではないのでしょうか。生徒がもっとかかわっていきたいと思える人間になれるよう、これからも自分を磨いていくとともに、前向きな言葉を使えるようにしたいと考えさせられた一言でした。

引用参考文献

外山滋比古『日本語の作法』日経 BP 社、2008 年